

宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想

<概要版>



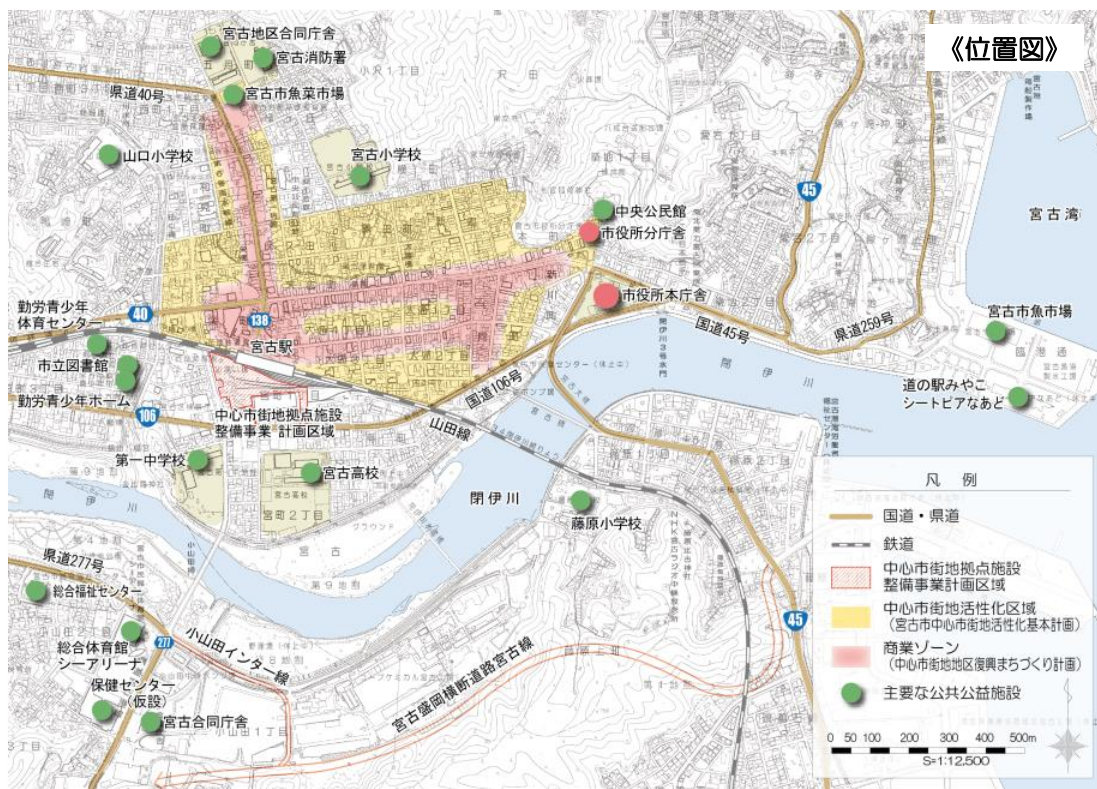
「つながり」のイメージをイラストにしてみました
イラスト作成：おーみえり

平成28年 月
宮古市

2) 周辺の土地利用の状況

敷地の西側は、商店や宿泊施設などの民間施設が集積した商業ゾーンが形成されており、宮古駅や中心市街地からのアクセス性も良好です。

南側には豊かな自然景観が残されており、周囲の景観との調和を図り、これらの身近な自然に市民が親しむことが出来るよう、敷地の特性を活かした有効活用も望めます。



(2) 現庁舎の取扱方針

- ①本庁舎は、耐震性の問題から、大規模地震の際には崩壊の危険性が高く、防災・災害対応の拠点として問題があります。また、本庁舎、分庁舎とも設備などの老朽化が著しく、維持管理が課題です。このため、「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本計画」（平成 27 年 3 月策定）に基づき、宮古駅南側に本庁舎を移転し、行政機能の集約・効率化を図ることとしました。
- ②庁舎機能移転後、現庁舎の建物を活用する場合には、耐震安全性の確保が必須であり、相当の経費が必要です。また、耐震補強工事を行う場合でも、併せて大規模改修など長寿命化対策を行わなければ耐用年数は延伸されないため、耐用年数を 65 年と見込めば、平成 48 年頃には解体の必要があります。
- ③「宮古市公共施設再配置計画」では、「今後の財政力に応じて施設の総量削減を図るとともに、利用者ニーズに応じた質の向上を図る」こととして、「今後 40 年間の公共施設の更新費用を、49%(約 22.5 億円/年)削減する」ことを目標としています。

【前提条件】

本庁舎及び分庁舎は、新庁舎への機能移転後、可能な限り早い時期に解体し、跡地の有効活用を図ることとします。

(3) 市民の意向・要望

■市民アンケート調査（平成 26 年 8 月～9 月実施）

全世帯（広報みやこ折込）及び来庁者（対面）を対象に調査を実施し、1,567 人から回答を得ました。

【アンケート結果：拠点施設整備後の本庁舎や分庁舎の用地の活用について（複数回答）】

順位	内容	割合
1	市民が憩える公園・広場	25.5%
2	市民や観光客のための市営駐車場	18.8%
3	市民講座やボランティア活動、地域活動などができる生涯学習施設	17.3%
4	子育てや高齢者などのための福祉施設	17.1%
5	企業や個人などへの売却、または、民間への賃貸	16.6%
6	歴史館や資料館などの文化芸術施設	15.4%
7	レクリエーション・スポーツの活動場所	14.9%
8	観光案内・交流拠点施設や物産販売施設	14.3%
9	公共施設の用地として当面は市有のままとする	10.9%
10	わからない	6.3%
11	その他	5.2%
12	無回答	5.0%

■市民アンケート調査（平成 27 年 6 月～7 月実施）

18 歳以上の市民 3,000 人を対象に、郵送方式による調査を実施し、1,080 人（回収率 36%）から回答を得ました。（上位 5 位までを掲載）

【本庁舎の跡地活用】

順位	内容	割合*
1	誰でも、いつでも憩える公園や広場	54.4%
2	観光案内などの情報提供や物産販売などができる場	52.4%
3	市民や観光客のための市営駐車場	49.9%
4	子育てや高齢者などを支援する場	49.5%
5	レクリエーションやスポーツができる場	41.6%

【分庁舎の跡地活用】

順位	内容	割合*
1	子育てや高齢者などを支援する場	43.5%
2	市民や観光客のための市営駐車場	40.3%
3	誰でも、いつでも憩える公園や広場	39.9%
4	観光案内などの情報提供や物産販売などができる場	39.7%
5	歴史や文化、芸術などを伝えられる場	38.3%

*「割合」：「期待する」＋「やや期待する」の合計

■まちづくり市民会議＝市民ワークショップ

（第一期：平成26年11月～平成27年8月、第二期：平成27年12月～）

市内の高校生から40歳未満の方を中心に「まちづくり市民会議」を立ち上げ、中心市街地地区の活性化のアイデアについて、“まち歩き”や“シナリオづくり”などの活動を通して、まちなかでの「過ごし方、楽しみ方」のイメージを出し合い、市庁舎跡地での「過ごし方」を具体的に創造しました。

「過ごし方のつながりから発想した、市庁舎跡地の利活用」のアイデアの多くは、単なる“場所”や“ハコモノ”ではなく、“〇〇〇ができる場所”、“〇〇〇して過ごす場所”となりました。

人が集い、人が育つ場所として、アイデア（シナリオ、シーン）を出し合い、グループで共有しました。

第二期では、第一期の成果を踏まえて、アイデアの一部の実現を目指しています。



ワークショップ（平成27年8月1日開催）の様子

〔ワークショップで提案されたアイデア〕：跡地活用のイメージをイラストにしてみました。



イラスト作成：おーみえり

(4) 検討の視点

現庁舎の跡地活用の方角性を検討するにあたって、特に重要と思われる視点は次のとおりです。

1) 中心市街地への波及効果

大規模な市有地である本庁舎と分庁舎の敷地は、市の貴重な財産であり、中心市街地はもとより、市全域に賑わいをもたらすことが期待されています。跡地を単独で議論するのではなく、「中心市街地のまちづくり」へどのように寄与できるかという視点で検討することが必要です。

また、拠点施設の整備後、速やかに現庁舎を解体し有効に活用することで、市街地への人の流れを生みだすことが必要です。

2) 敷地の現況

市の中心部に位置する現庁舎は、国道 106 号と国道 45 号に囲まれ、アクセスが良い場所であり、市民の集合場所や団体利用のバスの発着、経路地にも使われており、そのような機能を残すことも検討します。計画地は、商店街から徒歩圏内であり、計画地を出発点とした「まち歩き」も期待されます。

3) 震災の歴史

本庁舎と分庁舎は、東日本大震災により被災した場所であり、津波襲来時に撮られた生々しい映像が、インターネットで全世界に発信され、震災の記憶や教訓を後世に伝える象徴的な場所の一つとなっています。

本計画地は市の震災の記憶を伝える場所として相応しい場所であり、メモリアル機能について検討することが必要です。

3 整備の方角性

(1) 基本理念と基本方針

【基本理念】

「賑わいを創り出し、共に育む」新しい空間

【基本方針】

- ① 市民が日常的に集い、語らう、**憩いの場**
- ② 四季を通じてイベントを楽しむ、**賑わいの場**
- ③ 周辺と結びつき、まちを育てる、**つながりの場**
- ④ 自然（森・川・海）を敬い、震災の記憶を、**伝承する場**

【整備（活用）イメージ】

1. 広場・緑地・公園

- ・休憩や談話を楽しめる公園
- ・スポーツやレクリエーションができる平坦な広場
- ・遊具や築山（プレイマウンテン）



築山（北海道妹背牛町・
遊水公園うらら）



芝生広場
（町田市・町田シバヒロ）



イベント広場（茨城県筑西
市・県西総合公園）



遊具（高知県宿毛市・
平田公園）

2. 付帯する施設や賑わいを生む取り組み

- ・音楽など、様々なイベントや市民イベントを開催するための屋根付ステージ
- ・野外炊事施設
- ・移動店舗等を活用したイベントの開催
- ・飲食や休憩ができる場
- ・市内を回遊するための自転車を貸出する場



キッチンカー
（岩手県釜石市）



野外炊事施設（神奈川県
大和市・大和ゆとりの森）



サイクルオアシス
（長野県諏訪市）



イベントステージ（弘
前大学キャンパス内）

3. 震災の記憶伝承

- ・震災の記憶を伝えるモニュメント



希望の鐘（宮城県岩沼市・
千年希望の丘）



東日本大震災モニュメント
（宮城県塩竈市）

4. その他

- ・誰もが使いやすいトイレ・授乳室
- ・施設を管理し、周辺の観光施設・メモリアル施設を案内できる管理棟
- ・イベント物品などを保管する倉庫
- ・常時利用できる駐車場
- ・かまどベンチ、災害用トイレ



管理棟（北海道妹背牛町・
遊水公園うらら）



倉庫（千葉県市原市・
市原市総合公園）

(2) 事業費及び整備財源

本庁舎と分庁舎の解体費については、市で行った解体工事の実績や、他市の解体工事の事例、刊行物の単価などを参考に、概ね３億円程度を見込みます。

現庁舎の跡地整備に要する費用は、今後、「基本計画」の策定作業において、整備内容についての意見を広く募集し検討します。

なお、整備費の例として、市民ワークショップで出されたアイデアを基に試算すると、下表のとおり約３億円程度の費用が見込まれます。

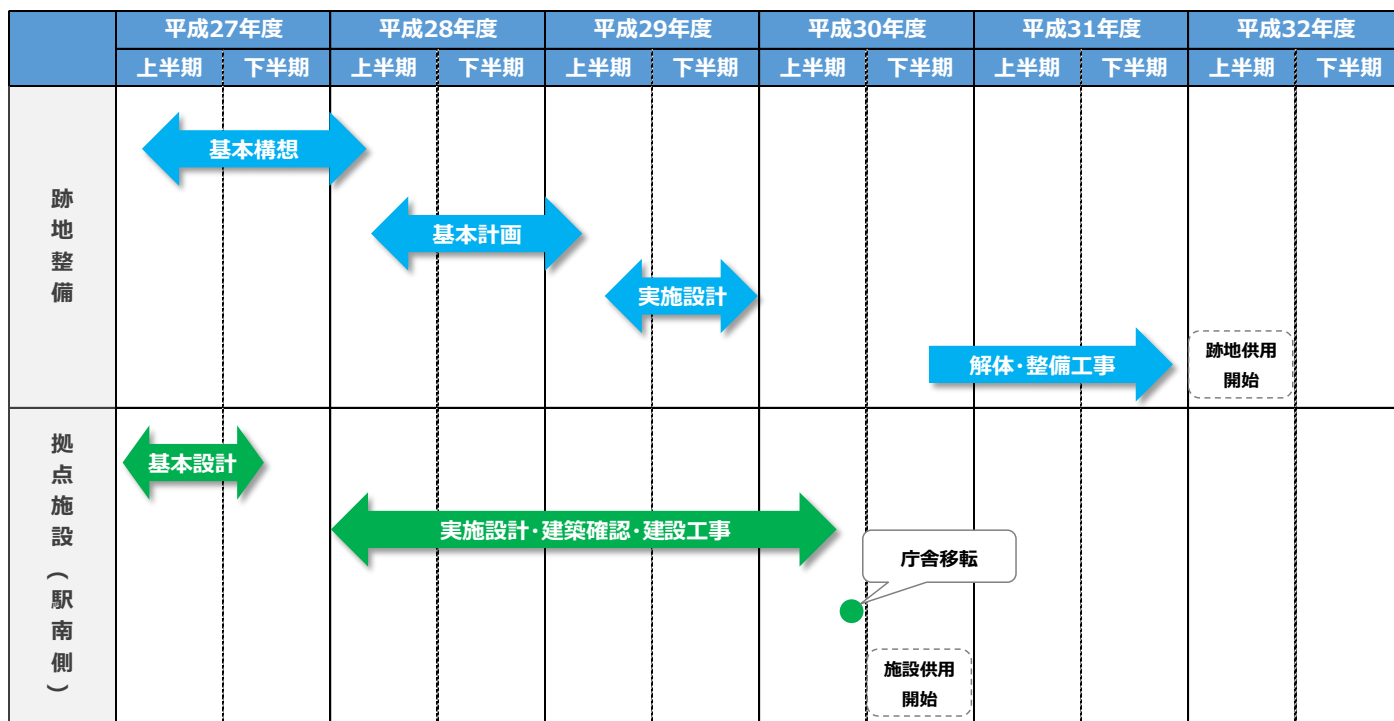
また、整備財源については、補助金や交付金、起債などを活用することを想定し、市の負担を極力抑えた計画とします。

【整備費用の目安】

跡地	整備費用	整備内容の例
本庁舎・分庁舎	約 3.0 億円	芝生、植栽、駐車場、屋根付き駐輪場、フェンス、屋根付きイベントステージ、トイレ、ベンチ、遊具

(3) 整備スケジュール

現庁舎の跡地活用に関する基本計画の策定、実施設計を順次進め、「地域防災拠点施設」の供用開始を予定する平成 30 年度の後半期には、現庁舎の解体工事に着手し、31 年度には跡地整備を含めた全ての工事を完了し、32 年度の供用開始を目指します。



4 整備に向けた諸課題

(1) 配慮すべき事項

1) 変化する市民ニーズへの対応

跡地整備の基本計画策定にあたっては、市民アンケート調査から読み取れる潜在的なニーズを把握するため、市民や関係団体に対して聞き取り調査などを実施する必要があります。特に、「情報提供、物品販売、子育て支援、高齢者支援」といったニーズに関しては、市内に分散する既存の施設などの機能を確認し、広い視野で検討を進めていくことが重要です。

また、跡地の整備後は、市民の利用に供して利用促進を図るとともに、将来的には、市の財政事情などの制約条件を勘案しながら、施設の利用実態や市民ニーズ、跡地を取り巻く社会環境の変化に対応して、活用方法を見直し、市民と共に、その場所を育てていくことが必要です。

2) 市財政への影響

跡地の整備にあたっては、整備費用及び整備後の管理体制や経費を検証し、今後、負担可能な金額を見定め、その範囲内で最大限、市民の期待に応えられる整備内容とすることが必要です。特に、宮古駅南側の拠点施設整備は、これまでに例を見ない大規模な事業であり、多額の財政負担を要することから、2つの事業を一体的にコントロールしていく必要があります。

3) 災害への備え

「宮古市総合ハザードマップ（平成 20 年 3 月全世帯配布）」によると、計画地（現庁舎）を含む中心市街地の多くは、100 年に 1 度程度の大雨による浸水が想定されており、災害対策について配慮が必要です。（現庁舎の浸水深を想定すると、本庁舎 3.4～4.1m、分庁舎 0～3.3m となります。）

(2) 市民に親しまれる場所とするために

市民に親しまれ、賑わいと安らぎの拠点とするためには、多くの皆様から活用に関して意見を募ることは勿論、アイデアを具現化するための方法についても、検討することが必要です。

- ・平成 26 年度から実施している「まちづくり市民会議」を継続します。
- ・ホームページや市広報を通じて、計画内容等を周知するとともに、活用方法等を募集します。

宮古市庁舎跡地活用に関する基本構想【概要版】平成 28 年 月

■お問い合わせ■ 岩手県宮古市 企画部 復興推進課 拠点施設推進室

電話 0193-68-9089（直通）

FAX 0193-63-9114

電子メール fukkou@city.miyako.iwate.jp

